

# 大豆の健康効果実感

## 八学大女子ラグビー部と太子食品 モナリザ賞 知事に報告



三村知事(右から3人目)に研究経過を報告した八学大女子ラグビー部関係者と太子食品の工藤社長(左)

大豆食品の健康効果に関する研究で昨年11月に「世界健康フォーラム・モナリザ賞」を受賞した八戸学院大学女子ラグビー部と、連携する太子食品工業(三戸町)の関係者が11日、県庁を訪れ、三村申吾知事に研究の途中経過を報告した。モナリザ賞は、NPO法人「世界健康フロンティア研究会」(兵庫県西宮市)

が健康科学に取り組み研究者らに贈っている。同ラグビー部は太子食品から大豆製品の提供を受けて、大豆イソフラボンなどが女子選手の筋肉量や体脂肪に及ぼす変化、月経周期安定への影響などを検証している。部員7人は毎日、納豆や豆腐を食べ、これまでに体脂肪の減少や筋肉量の増加が数値で表れている。田端

ひかる副主将(2年)は「疲労回復が早く、骨密度も上がっているのを実感している」と語り、三村知事は「結果が出るのが楽しみ」と期待を込めた。

北方系の大豆はイソフラボンを多く含んでいるとされ、太子食品の工藤茂雄社長は「県民の長寿や健康のために県産大豆を広めたい」と意気込んだ。

同大は、今年11月の次回世界健康フォーラムで成果を発表する予定。  
(古川路子)